

2023 年度関東支部第 2 回常任幹事会議事録（案）

日時 2023 年 7 月 7 日（金）14 時 00 分～16 時 00 分

場所 WEB 会議／日本電子（株）東京事務所（hybrid）

出席者：

〔支部長〕安田 〔副支部長〕四宮、敷野、平山、宮下 〔監事〕津越

〔常任幹事〕青木、石川、板橋、稲川、植田、国村、桑田、坂元、島田、菅沼、菅原、高橋（あ）、高橋（由）、高橋（豊）、豊田、丹羽、沼子、林、古庄、森岡、由井 〔参与〕中村、望月、山本

欠席者：

〔監事〕会田 〔常任幹事〕上野、梅林、大塚、岡村、東海林、鈴木、並木、吉田

1. 前回議事録確認

2023 年度関東支部幹事会（新旧引継、3 月 13 日（月）開催）議事録（別紙 1-1）

安田支部長より議事録案の確認があった。質疑・コメント無し。来週中（7/14）までコメントを受け付け、なかった場合は承認とする。

2. 報告事項 <資料作成・説明者>

(1) 会計報告 <敷野副支部長>（別紙 2-1）

敷野副支部長より 2023 年度に入ってから会計報告があった。

- ・主な収入として、本部補助金(2277300 円。3～6 月分、年間の 1/3)及び 6 月に行われた無機分析基礎セミナー受講料(495000 円)が入った。
- ・講習会収入として 992700 円を見込んでいるが、あと 2 回(11 月 無機分析基礎セミナー、2 月 安全セミナー)開催される予定なので、予定通りもしくは予定を超える収入がある見込み。
- ・支出の部において、印刷製本費(セミナーのサブテキスト)について相談したい。
- ・支出の部の事務員人件費は収入の部の本部補助金収入と同じ金額とした。

(2) 理事会報告 <安田支部長>

安田支部長より、理事会において関東支部に関係するトピックスはなかったとの報告があった。

(3) 各誌編集委員会報告（別紙 2-2）

全担当者が離席または欠席につき、安田支部長の代読で報告があった。

- ・「ぶんせき」誌の編集委員会が 6/8 に行われ、「こんにちは」において島津製作所、キューピー、科学警察研究所の取材メンバー及び取材日時が決定した。
- ・「分析化学」誌の第 3 回編集委員会が 6/12 に行われた。第 83 回日本分析化学討論会討論特集論文、ポストコロナ時代の分析化学の論文を募集しており、7/7 が申込締切、8/11 が原稿締切である。また、年間特集は「分」をテーマとしており、第 1 期の申込締切は 7/21、原稿締切は 8/18。その他も積極的な投稿をお待ちしています、とのことであった。
- ・「Analytical Science」報告なし。

(4) 各地区活動報告 <各地区担当> (別紙 2-3)

各地区活動について各担当者より報告があった。

- ・第 36 回新潟地区部会研究発表会開催について高橋(由)常任幹事より以下の案内があった。

開催日時：2023 年 11 月 2 日(木) 13:00～

場所：新潟大学 駅南キャンパス ときめいと

開催方法：対面を基本。要望に応じハイブリット。

内容：特別講演(安田支部長)1 件、一般公演 5 件、ポスターセッション、懇親会

募集：ぶんせき誌 8 月号及び関東支部 HP アップ済み

- ・千葉県分析化学交流会開催について沼子常任幹事及び中村参事より以下の案内があった。

開催日時：2023 年 11 月 25 日(土)

東邦大 西垣敦子先生中心に開催予定

- ・第 17 回茨城地区分析技術交流会開催について坂元常任幹事より以下の案内があった。

開催日時：2023 年 12 月 1 日(金) 12:30～

場所：ザ・ヒロサワ・シティ会館(水戸駅から徒歩 15 分)

開催方法：対面(オンラインは実施しない)

内容：講演 3 件(安田支部長、津越前支部長、武智先生)、ポスターセッション、懇親会

募集：10/27 まで募集 ぶんせき誌 9 月号及び関東支部 HP

- ・群馬・栃木分析交流会開催について菅原常任幹事より以下の案内があった。

開催日時：2023 年 12 月 22 日(金)

場所：前橋工科大学

開催方法：ハイブリット

内容：講演 3 件(安田支部長、他 2 件は調整中)

募集：交流会 HP

- ・山梨地区交流会について植田常任幹事より、関係者が山梨大学関係者のみであるため開催しないとの報告があった。

- ・神奈川地区分析技術交流会について、大塚常任幹事の代理で望月参与より、過去 2 回、神奈川県環境計量協議会の協力で実施したが、コロナ以降協議会の協力が得られないため中止との報告があった。

(5) 若手の会活動報告 <岡村(代行：森岡) 常任幹事> (別紙 2-4)

森岡常任幹事より令和 5 年度東日本分析化学若手交流会の開催報告があった。

- ・2023 年 6 月 23 日(金)に東北大学(青葉山新キャンパス、世話人：唐島田先生)において東日本分析化学若手交流会が開催された。

- ・参加者は一般 17 名、学生 50 名、合計 67 名であった。

- ・招待講演 2 件(東北大 井上助教、茨城工業高等専門学校 澤井講師)、学生依頼講演 3 件(東北大 岡田正大氏、東北大 宇田川喜信氏、福島大 丹治珠緒氏)、ポスター発表 39 件で優秀ポスター賞 3 件

(東北大院 成田在弘氏、東京薬大 北谷菜津美氏、宇都宮大院 佐々木漣氏)の受賞があった。

・次回は東北支部と関東支部で別々に行う。コロナ禍前の宿泊形式にしたい。

(6) 分析イノベーション交流会活動報告 <豊田常任幹事>

豊田常任幹事より分析イノベーション交流会の活動報告があった。

・5月の討論会で「ものづくり交流会 2023 in 中部」を開催した。参加者 105 名。

・講演 2 件(富山大 源明先生、信州 TLO 大澤様)、展示交流会は 7 つのブースで実施した。新たに大学からの展示あり、産学連携の窓口が広がった。

・軽食配布で実施し、好評であった。

・次の年会においても「ものづくり交流会 2023in 九州」を実施予定。

報告に対して、イノベーションフォーラムと関東支部との関係はどういうものかとの質問があり以下の回答があった。

回答(津越監事)：分析イノベーション交流会は関東支部の下部組織である。年会・討論会において分析イノベーション交流会が「ものづくり交流会」を主催しているので、組織上は関東支部の下部組織で運営していることになるが、年会・討論会という他支部での開催となるため、あえて関東支部の名前は冠せず、本部からの要請を受けて間借りして実施しているという体制である。1 月の分析イノベーションフォーラムは関東支部と冠して実施している。

(7) 支部主催セミナー報告 <敷野副支部長>

敷野副支部長より支部主催セミナーについて報告があった。

・関東支部主催のセミナーとして、機器分析講習会 4 コースと化学分析基礎講座 2 コースがあったが、色々な事情ですべて中止になっている。

・もとは本部主催であったが昨年度から関東支部に移管されたセミナーとして、無機分析基礎セミナーと安全セミナーがあり、実施している。

・6月に基礎セミナーを実施、19名参加。現在集まりがよくないので集めたい。

・製本代として年間 25 万円ほど予算としているが、2 万 3 千円に抑えた。しかし、安い分紙が今までのものよりも薄く、透けてしまうので、紙の質を上げたい。紙の質を上げると白黒印刷ができずカラーとなり、5 万 4 千円くらいになるが、少部数の印刷で予算より実費は抑えられ、これまでの 1 回あたり約 10 万円よりは安価である。また、発光分析などはカラーの方が分かりやすく、参加者の満足度が上がることも見込まれる。以上のことから、紙の質を上げてカラー印刷としたい。

→討論の結果、カラー印刷が了承された。

(8) 分析化学イノベーションフォーラム助成募集の件 <安田支部長> (別紙 2-5)

分析化学イノベーションフォーラム助成募集の件で安田支部長より相談等があった。

・案内をどこにも出していないが、これから「ぶんせき」誌に案内をだすと 9 月号になるので締め切りを 8/31 から 9 月 30 日に変更したい。→了承された。

・千葉で開催された年会の関東支部予算(210 万円くらい)を使用しているため、最大 70 万円×3 件となり、

現在 2 件助成しているので、残り 1 件の募集でよいか、増やすか。

→複数件応募があった場合は相談する。採択時には宮下副支部長も内容を確認し、採択可否を判断する。

・1 月の幹事会または 3 月引き継ぎ幹事会で報告してもらおう。1 件は引き継ぎ幹事会で終了報告になる。

・旅費・謝金・会議費・印刷費としてのみ支払い可能なので、この助成金だけでフォーラム運営はできない。

予算項目に関して以下の議論があり、結論がでないので、鉄鋼協会のフォーラム助成の支出項目を参考に支部長・副支部長で原案をもみ次回指針を示すこととなった。

意見：会議費として使用できる項目を具体的に明記した方がよいのではないか。学生アルバイトの謝金や飲食仲間場合など、どのあたりまで使用できるかなど。

回答：会議費は経理的には飲食代。会場を借りるのは賃借料×、バイト代は人件費×、謝金は講演料×支部の講演会運営規定等があるのでそれに従う。

質問：研究の助成なので調査委託費として使用できるか？運営費ではないものとは何か？

(9) 支部表彰募集の件 <安田支部長> (別紙 2-6)

新世紀賞及び新世紀新人賞の候補者募集について安田支部長より報告があり、積極的な募集が呼びかけられた。

(10) その他 特になし。

3. 協議事項

(1) 学会賞等候補者推薦委員会について <安田支部長> (別紙 3-1)

安田支部長より学会賞等候補者推薦委員会委員案が示された。辞退する人は安田支部長に連絡いただきたいとのことであった。

(2) 今年度セミナーについて <安田支部長>

先ほどの敷野副支部長の説明通りに進めていく。

(3) インボイス制度に対応した請求書発行のお願い <安田支部長> (別紙 3-2)

インボイス制度への対応について安田支部長より説明があった。

・10 月からインボイス制度が始まるのに伴い、準備期間として 7 月から様式に沿った文書を発行するようにしてほしい。

・税抜き額と税額、税率が分かるように分けて記載すること。

・登録番号(日本分析化学会の登録番号は T7-0107-0500-1780)を記載すること。

・物品購入時には、可能であれば適格請求書にあった領収書を受け取ってほしい。

・インボイスに追加される 3 つの項目として①事業者の氏名または名称および登録番号、②課税資産の譲渡等の税抜き価格または税込み価格を税率ごとに区分して合計した金額および適用税率、③税率ごとに区分した消費税額、がある。

・関東支部の地区活動なども10月以降のものが多くなっているため、請求書や領収書の発行・受取時には様式に沿ったものをお願いします。（特に領収書の発行や立替の時の請求書が多いと思われる。）

インボイス制度について以下の通り、多数の質疑応答があった。

質問：例として請求書があるが、領収書も同じでよいか？ 回答：よい。

質問：金額を一枚一枚の領収書に記載する必要があるか。 回答：ある。

質問：HP にインボイス制度に対応した情報を書いて、請求書代わりにし、領収書は簡便なものにすることができるか？

回答：QA の③にあるように、請求書を発行せず領収書のみ発行する場合は、請求書で要求されている項目を記載する必要がある、とあり、領収書を簡単にするためには請求書がないとできない、ということになり、結局どちらかを作る必要があるのではないかと？

結論：請求書には宛名が必要なので、宛名のない請求書を講習会等の募集 HP にダウンロードできるように作っていても、手元の領収書に書いてないといけない。

質問：学会で企業の協賛を得ると、企業から学会に請求書を出すよう求められる。シンポジウム等の実行委員長名で請求書を発行する場合は番号をどうもらえばよいか？

回答：日本分析化学会の登録番号を書き、そのシンポジウム等の名前と委員長の名前を書けばよい。

質問：つまり、学会がその資金の帰属先になる、ということでしょうか。税金を徴収するのはシンポジウム等でも税金を納めるのは学会なので、税金も納めないといけない。集めた会費を全額運営費に使えない、あるいは、別途税金をつけて請求しなければならない。税金を納める作業がこれからは必要になる。取引額によっては税金を納める作業は不要？

(4)その他

- ・支部のメーリングリストに流す公募の件を HP にも載せることになった。
- ・議事録公開のページを規定なども含めた資料集のところに入れることになった。
- ・議事録の HP 掲載にあたり、承認を次回の常任幹事会を待たずにメールで最終承認できるか等について検討され、議事録案が出てから5日営業日をめどにメールで最終承認することとなった。
- ・過去には参与も常任幹事会に参加していたが、コロナ禍以前くらいで参与に連絡がいかなかった経緯を説明してほしい。
→関東支部の財政がきつく、参与の先生に交通費を出さないと決めた。その後連絡もいなくなってしまった。しかし、オンラインであれば交通費は不要であるし、参加できることになっているので連絡するようにする。
- ・関東支部 HP の名簿に役割分担が載っていなかったが、載せる方向で検討することになった。
- ・活動が終わり清算まで終わったら、できるだけ速やかに決算報告書をだし、事業報告に会計報告も合わせて載せてほしい。
- ・支部ニュース原稿も早めに提出をお願いします。
- ・イベント等の情報や、開催時に撮った集合写真などを HP に載せたいのでお送りいただきたい。
- ・支部ニュースの冊子版を配る件について、過去には新年会または引き継ぎ幹事会の後の懇親会で配布されており、50-70 部ほど作成されていた。新年会または懇親会を再開できるかが先の課題で、それによって冊子

を作るかどうかが決まる。